

平成18年度 秋田市立秋田西中学校

修 学 旅 行 会
講 演 会

【演題】：「働くことと勉強することの意味」

講師：日本証券代行株式会社 取締役相談役 遠藤勝裕 先生

場所：ホテルメトロポリタンエドモント 2階 悠久の間

日時：平成18年12月14日(木) 午前9:00～11:00

講演

【演題】：「働くことと勉強することの意味」

講師：日本証券代行株式会社 取締役相談役 遠藤勝裕 先生

場所：ホテルメトロポリタンエドモント 2階 悠久の間

日時：平成18年12月14日(木) 午前9:00～11:00

私が今の職業を選んだわけ

いい修学旅行ですね。名所を見学するだけでなく、職場体験をしたり今日の講演を聴いたりする。自分は京都・奈良で神社を見た記憶はあるが、なにも残っていません。それに比べると皆さんの旅行はすばらしい。

それでは、自己紹介をします。それからテーマに入ります。私は、昭和20(1945)年6月19日に生まれました。ちょうど先週の12月8日に東京の中学校で講演をしました。昭和16年のこの日はアメリカと日本が戦争を始めた日です。アメリカと戦争をしたことを知っている人といったら1/3でした。みなさんはどうですか。(生徒が挙手する)ほとんど知っていますね。よかった。当時は、東京の池袋に住んでいたのですが、そのころは、アメリカの空襲の可能性があったので、山形に疎開(空襲=アメリカの航空爆撃機による主として爆弾による攻撃)し、そこで生まれました。米沢市です。高校まで公立ですごしました。それから早稲田大学を卒業して、日本銀行に勤めました。子どもの時は、よく勉強しろとおこられました。疎開から東京に戻るとほとんど、空襲による焼け野原で、そこで野球ばかりしていた。当時親からは、勉強しないとめしを食えないぞといわれました。みなさんは、いい社会人になれないよといわれているのでしょうか。日本が本当に貧しいときは、そういわれていました。中学校の2,3年の時は高校にいかなければならないくて、勉強もしなければならないかたのですが、本が好きなこともあってどんどん目が悪くなってきました。

働くことについては、そのころ、おぼろげながら分かってきました。それが高校の時です。高校から大学に入る昭和39年、東京オリンピックがありました。東京オリンピック、知っていますか。(生徒挙手)知っている人は、半分ぐらいですね。今度2008年は北京であります。東京、ソウルについて3回目のアジアでの開催ですね。

そうした大学時代の時、経済学を勉強したいと思ったのは、兄が持っていた城山三郎の「小説日本銀行」を読み、社会の役に立ちたいと思ったからです。そして、昭和43年から平成10年まで日銀に勤めて、それから今の日本証券代行という会社に移りました。



働くことは端を楽にすること

皆さんのおうちの方は、現在40歳ぐらいでしょうか。私は、働くということは、端(はた)を楽にすること、周りを楽にすること、と考えています。皆さんのおうちにとってもっとも近い端とは、みなさんのことです。それは、自分の子どもを楽にするために働いているということです。将来みんなが働くようになるとその周りを楽にするということになります。もちろん、自分自身のために働くことがもっとも身近な端ということになります。

江戸時代、近江、今の滋賀県のあたり、秋田は当時出羽の国(秋田・山形)、東北全体で陸奥といったのですが、その時代の近江の商人は、「三方良し」という言葉を使いました。これは売る人、買う人が共に喜び、結果として世の中全体も良くなる商売をしよう、という意味です。働くことの本質をついた言葉ですね。

何をして働くか、どこで働くか

さて、働くことで大切なポイントが二つあります。一つは、何をして働くのか、二つ目は、どこで働くのかということです。ビジネスのしくみという皆さんに配ったプリントをだしてください。今皆さんは中学校2年生ですね。産業における三つの分類^{注)}を知っていますか。

まず、1次産業、これは、生産者、自然を相手にする農業、おうちで農業をやっている人は... (生徒挙手なし) いませんね。私が子どもの頃、八郎潟を干拓して米を増産しようとした記憶があります。あるいは、魚を捕る仕事、鉱業もある。秋田県には同和鉱業があります。また、秋田杉を切り出すのは、第一次産業、それを加工して製品を作るのが第二次産業、その製品を売る、サービス産業が第三次産業で、日本の60%くらい、神戸では70%にも達します。日本銀行は、サービス業です。銀行、学校の先生もサービス、教育というサービスを提供します。今の総理大臣、安倍晋三さん、この方もサービス業です。国民のために働くというのは、サービス業です。国会議員が選ぶのが総理大臣、国会議員も皆さんのおうちの方が選びます。おうちでは、どの産業にはいるか聞いてみましょう。

2番目、どこで働くか、このことはさらに二つに分かれる。自分のうちで働くのか、外で働くのか、秋田で働くのか、それ以外の外で働くのか、それを考えなければならない。

皆さんから送っていただいた私の町の宝も読ませてもらいました。私は、東京が長いのですが、東京以外の地域でも15年働きました。そのことが自分にとって大変よかった。

日本銀行 - 私がやってきた仕事

自分がどんな気持ちで働いてきたか、少しお話していきたいと思います。わたしの場合、仕事を考えて、勉強しようと考えた。その逆もあるが、私は、前者の方です。それでは「お金と日本銀行」というプリントを見ながら、仕事の中身などを話していきたいと思います。わたしの仕事、日本銀行の仕事というのは、一言でいうと、いつでもどこでもどんなときでも国民の皆さんが安心してお金を使える状態にすることです。それは、三つの安心ということです。ここに千円札があります。じっくり見たことがありますか。よく見ると日本銀行券と書いてある。表には総裁の印。裏には発券局長の印を押してある。にせもの、本物が考えなくともよいように、あるいは、よごれたりしたときにきれいにします。すなわち、まずはお札についての安心です。

2番目の仕事として、ものの値段が急に上がったり下がったりする、つまりインフレやデフレで経済が悪くなることですが、こういう風にしないために、お金の量を調節する。そういう金融政策をおこなっています。たとえば、時計が世の中に一つしかないとき、千円しかないときは、千円です。ところが、2千円を持っている人がいてどうしてもその時計をほしいというときは、値段は2千円になってしまいます。千円しかないのに時計は二つとなると時計一つは500円となります。お金と物の量の関係を調節してインフレやデフレにしないということです。

3番目として、金融機関のための仕事です。秋田には秋田銀行など金融機関が沢山ありますが、みなさんが安心してこれらの金融機関を使えるようにする仕事です。

ここでお金の特徴的な役割を覚えてください。三つの特徴があります。

一つは、国内では誰も受取りを拒否できないということ、すなわち強制通用力です。

二つ目は汎用性、どこでも使える、ということです。いろいろなカードのかわりに使えるわけです。JRのスイカは、コンビニでは使えることがありますが、どこでも使えるわけではない。

三つ目ですが、クレジットカードを大人になったらつくると思います。カードで買い物をできますが、必ずお金を引き落としで銀行などから支払われることとなります。しかし、お金はその場で決済するとそれで終了です。カードのように後で現金を払う必要はない。これをファイナリティーといいます。

さて、日銀の仕事を紹介するお話をしてきました。私は、最初北九州の小倉に勤めまし

た。3年後に名古屋に動き、3年おりました。九州では鉄、名古屋では自動車という産業のこととかかわってきました。つまり、2次産業のことが分からないと3次産業はできない。そのあと東京へ戻り、金融政策に係る仕事を担当してきました。8年やりました。そのあと課長になってまた支店にでました。お金や金融機関の経営を見たりする仕事をしました。そのあと、札幌、神戸、青森などで色々なところで仕事をしてきました。

場合によってはハワイやパリなど外国でも使えることがあります。

六つの大切なこと

このように40年近く働いてきて私が大切と思っていること、社会から学んだことを6つお話ししたいと思います。

一つ目のキーワードは「上に頼るな」。上は、「うえ」以外に「かみ」と読みます。青森に住んでいた時の話ですが、地元の新聞の投書に、「家の前の県道に草が生えている県はなにをしてる」、そんな投書がありました。しかし、全て上に頼ってはいけません。家の前の草ぐらひは自分でかりましょう、と思いました。県に入っているお金はみんなのお金（税金）です。青森では、台風がきてリンゴが落ちて売り物にならなかったとき、県の人には国に何とかしてほしいと頼みにいった。わたしは、リンゴをひろってそれを売ることを考えました。自分でできることはできるだけ自分です、ということ、自己責任ということが大切です。

二つ目のキーワードは、「宝を生かせ」です。みんなの宝を聞きましたが良い宝を持っていますね。その地域その地域に宝を持っているがその宝に気付いていないことが多い。青森から人が出て行くのは、魅力がないからと青森の人はいっていましたが、青森にはたくさん宝があります。それに気づいていないのです。いろいろなもののバランスをもって豊かさを表します。所得を考えると東京が優位だが、家の広さや自然の豊かさを考えると東京はずっと下位です。青森は26位、日本開発銀行が調べた結果です。すばらしい青森だが宝に気付いていない。私はこの青森の宝が大好きで、いまだに青森と係っています。例えば青森の三内丸山遺跡を世界遺産しようというNPO法人の役員になっています。秋田の環状列石を含めてユネスコに申請をしようということ。みなさんが宝とした湧き水などを大人がもっと発信してほしいと思います。皆さんの宝として「家族」とも書いている人が多いですね。とても感動しました。

三つ目として「全員参加」ということを申し上げます。神戸の震災の時、みんなで力を合わせることを知りました。辛いことはみんなでやると楽になります。祭りの神輿は、一人でもかつがない人がいるとできなくなってしまいます。

四つ目は、「イエスからの出発」ということです。まずやってみよう。だめというのは簡単です。その理由だけ言ってあとは何もしなくてもよい。でも、イエスとってしまおうと大変です。その代わり実行すればとてもいいものが残ります。

五つ目としては「論より行動」です。阪神大震災の時、立派な評論をするけれど行動しない人も多かったのですが、ボランティアの人達が命がけで手助けをしている姿に議論だけではない行動することの素晴らしさを感じました。

六つ目としては「よそ者の知恵」です。これは、岡目八目という言葉があるように端で見る第三者には、状況がよく見える。地方ではよそから来た人をよそ者として排他的にみることがあります。そうでなくて知恵を借りることが大切です。そうすることで地方をどんどんよくしていくことが大切です。東京から地方を見ることで地方のよさが見えてくるのです。40年間私が働いてきて学んだことです。

中学生として今、しなければならぬこと

最後に中学校の2年のみんながどんなことがしなければならぬかお話しして終わりにします。日本は今大きな変化のまっただ中にあります。それはIT化と国際的水平分業が

進んでいるということです。日本の社会は世界の中で動いていかなければいけない。さらに少子高齢化，これが背景にあります。(少子高齢化によって)日本で働く人が減ってきます。そうした中で企業は，IT化と国際的水平分業によって働く人は日本人でなくともよいという考え方になってきている。では，こうした中で皆さんはどんなことを今，すればいいのでしょうか。それは，先生やおうちの人がいっぱい口を酸っぱくしていっていることをやりましょう，ということです。すなわち3つの力をしっかりつけておくことです。それらは学力，体力，そして気力です。そして四つ目として「人間力」，言い換えますと，「教養」をもつということ，たくさんの本を読むことです。例えば高校の履修不足はとんでもないことです。歴史を知らないと大人になってから大恥をかきます。また秋田には平野政吉(まさきち)美術館があり，その中に藤田嗣治(つぐじ)の『秋田の行事』がある。そうしたすばらしい画家のことを知っていることも「教養」の一つです。

明日は国会議事堂などみて，秋田にお帰りになるのですね。有意義な修学旅行になることを期待しています。これで私のお話を終わらせていただきます。

遠藤勝裕さんとの質疑応答

Q : 中学校時代はなにになりたかったのですか。

A 遠 藤 : 実は恥ずかしいがプロ野球の選手です。野球ばかりやっていました。

Q : 先生が日銀に勤めたいとさせた読んだ本の内容を教えてください。

A 遠 藤 : 「小説日本銀行」の主人公は，貧しい人を一人でも減らそう，世の中のために働こうという人でした。経済学の経済は，経世済民，この言葉を縮めて経済といったのですが，世の中の人を救うということです。

Q : 働くことと生きることとのつながりはなにか，教えてください。

A 遠 藤 : 人間は，猿に近いが，ホモサピエンスである。猿も働いているし生きています。ただ，人間は考える点についてサルと違っている。そして端を楽にするという端が，社会全体がよくなる，貧しい人が一人でもすくなることにつながってくる。

Q : 仕事をしていて楽しいことは何ですか。

A 遠 藤 : **辛いことが解消されることが楽しかった。** 阪神淡路大震災では，6400名あまりの方がなくなりました。1000人あまりの方は火災でなくなりました。お金も燃えてしまった。それでもお札の2/3があれば，代えてもらえるんです。2/5では，半額になります。当時，おそば屋さんから電話が来て冷蔵庫の中にお金が入っているので来てくれという。焼けてしまって動かすと粉々になってしまうらしいのです。応援隊の人に出向いてもらい黒こげの41万円をとらえることができた。そば屋さんは泣き崩れました。こんなにうれしいことはないと思いました。自分が日本銀行にいてよかった。やりがい，生き甲斐を実感できたときは楽しいと思います。

このあと，感想発表と感謝のことばが述べられ講演会は終了しました。

本文は，遠藤勝裕先生の約2時間のご講演の趣旨をできるだけ損なわないよう，要約させていただきました。(文責：丸山)

産業における三つの分類 注)

コーリン・グラント・クラーク (Colin Grant Clark, 1905年11月2日-1989年9月4日) は、イギリス人の経済学者で、国民経済を考察するに際して、GNP概念を先駆的に用いた。1941年「コーリン・クラークの産業分類」を考案する。遠藤先生がおっしゃった分類はこれに相当すると思われます。

第一次産業という用語は、慣例として、日本標準産業分類における次の3業種を第一次産業に含めることが多いようです。これは鉱業を含めない点でクラークによる定義と異なる。現在社会科で用いている分類は、後者の方です。

大分類A 農業

大分類B 林業

大分類C 漁業